

## ☆☆☆ 朝 礼 講 話 ☆☆☆

2月16日（月）

「ひびわれ壺」 講話 養護教諭 田中美紗紀



今日は、インドの民話をみなさんに紹介したいと思います。

### 「ひびわれ壺」

インドのある水汲み人は、二つの壺をもっていました。天秤棒の両はしにそれぞれの壺をさげ、首の後ろで肩にかついで、彼は水を運びます。壺のひとつにはひびが入っています。もうひとつの完璧な壺が小川からご主人さまの家まで一滴の水もこぼさないのに、ひびわれ壺は水汲み人が水をいっぱい入れてくれても、ご主人様の家に着くころには半分になっているのです。



完璧な壺は、いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼がつくられたその本来の目的をいつも達成することができたから。

ひび割れ壺は、いつも自分を恥じていました。なぜなら、彼がつくられたその本来の目的を、半分しか達成することができなかったから。

二年がすぎ、すっかりみじめになっていたひびわれ壺は、ある日、川のほとりで水汲み人に話しかけました。

「わたしは自分が恥ずかしい。そして、あなたにすまないと思っている」

「なぜそんなふうに思うの？」

水汲み人はたずねました。

「何を恥じているの？」

「この二年間、わらははこのひびのせいで、あなたのご主人さまの家まで半分の水しか運べなかった。水がもれてしまうから、あなたがどんなに努力をしても、その努力が報われることがない。私はそれがつらいんだ」

壺は言いました。

水汲み人はひびわれ壺を気の毒に思い、そして言いました。

「これからご主人さまの家に帰る途中、道ばたに咲いているきれいな花を見てごらん」

天秤棒にぶらさげられて丘を登っていくとき、ひびわれ壺は、おひさまに照らされて美しく咲き誇る道ばたの花に気づきました。花はほんとうに美しく、壺はちょっと元気になった気がしましたが、ご主人さまの家に着くころには、また水を半分もらしてしまった自分を恥じて、水汲み人に謝りました。

すると彼は言ったのです。

「道端の花に気づいたかい？ 花が君の側にしか咲いていないのに、気づいたかい？ ぼくは君からこぼれ落ちる水に気づいて、君が通る側に花の種をまいたんだ。そしてきみは毎日、ぼくたちが小川から帰る途中、水をまいてくれた。



この二年間、ぼくはご主人さまの食卓に花を欠かしたことがない。

君があるがままの君じゃなかったら、ご主人さまは、この美しさで家を飾ることはできなかったんだよ」

（菅原 裕子訳）

私たち一人一人得意なこと、苦手なことは誰でもあります。完璧な人は一人もいなくて、私たちもこの壺のようにひびをもっています。自分や友だちの苦手なことや欠点を責めるのではなく、それを受け止めて、みなさんも水汲み人のように、優しく手を差し伸べてあげられるよう心がけていってほしいと思います。



## 前期児童会役員選挙

20日（金）の1時限目に、平成27年度前期の児童会役員選挙を行いました。

新年度から学校を中心となる5年生、4年生から多数の立候補が有り、みなしっかりと演説することができました。立候補者の「楽しい集会を考えます」「ペットボトルキャップ集めなどのボランティア活動をさかんに行います」などの公約を投票する3年生から6年生が真剣に聞くことができました。

演説終了後の投票では、だれが学校全体のためにがんばってくれそうか考えながら投票していました。平成27年度の児童会も、役員を中心に全校が仲良く力を合わせて活動できそうです。

